

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2021.12)令和3年度:

文献検討

不妊治療を受けるカップルの関係性とその影響

および支援に関する文献検討

佐々木美百合 渡辺奈央 吉田実歩

(指導：山内まゆみ 杉山結理)

緒言

女性の社会進出やライフスタイルの多様化による晩婚化と初産年齢の上昇¹⁾²⁾は、不妊治療(以下、治療)の需要を高めており、治療中の女性が感じるストレス、なかでも心理的苦痛は内分泌異常や卵胞発育不全、早期流産等、治療を困難にする可能性がある³⁾。しかし、精神的苦痛はパートナーのサポートにより増減するとも報告されている⁴⁾⁵⁾。そこで本研究の目的は、治療を受けるカップルの関係性と両者に与える影響、および両者の関係性の向上を図る支援について先行研究から明らかにし、治療中の心理的苦痛の軽減を図る支援を考える一助とすることである。

方法

研究対象文献：医学中央雑誌 Web 版 (Ver. 5) を用いて、「不妊」、「パートナー」、「夫婦」、「影響」、「援助」、「支援」のキーワードを組み合わせて、看護、原著で絞り込み検索を行った。そのうち、研究対象文献は、研究対象者が治療中の女性か男性、またはカップルとする文献で、両者の関係性に関する成果が記述された 12 文献とした(表 1)。

分析方法：1. 研究の種類と調査方法などを概観した。2. 研究対象者の種別ごとに治療を受ける女性、男性、カップルの関係性、両者に対する援助に関連する記述から意味合いがわかるよう文脈を抽出した。

結果

1. 研究の動向

研究デザインは、質的研究 6 件と量的研究 6 件、発行年数は、1999 年から 2020 年の範囲で、なかでも 2010 年以降で 10 件を占め、過去 10 年間に集中した。

2. 女性を対象とした研究

ルーラル地域に居住する女性は、パートナーからの受療に対する気遣いや協力に感謝し¹⁰⁾、パートナーからの慰めや励ましによる支えは治療を長期継続できる要因となっていた¹³⁾。パートナーと治療に関する相談ができない女性は、パートナーの態度や行動に対する不満⁸⁾や夫婦関係に対する困難感を抱いていた¹⁰⁾。女性にとって、生活予測不能性や病気回復予測不能性等の不確かさは、夫婦関係が良好でないほど感じていた⁷⁾。治療に伴う女性のストレス対処は、心配する・現実逃避等の感情的・緩衝的対処より、状況を改善しようと積極的に試みる直接的対処を行う方が、女性は夫婦関係を良好と認知していた¹⁵⁾。治療最終期の女性は看護者に、意思決定を支える治療段階に沿った十分な情報提供と、女性のみでないカップルへの支援を求めており、看護者は治療最終期の女性に夫婦でその後の人生を考えるよう支援していた⁶⁾。

3. 男性を対象とした研究

男性は、治療前では妻と子どもや治療に対する主観の相違があるが、治療を通して妻の治療負担の認知や妻の育児希望の理解、妻とのコミュニケーションの増加により妻への理解が進めば、治療上・生活上・精神的なサポート等、妻に協力するという行動変容が見られた¹⁴⁾。

4. 夫婦(カップル)を対象とした研究

カップルのパートナーシップは、精神的苦悩の軽減、妊孕性、健康状態にポジティブに影響し、相互理解、治療の理解度・意欲、治療やパートナーへの協力行動等を変化させ、互いの関係性を満足させた¹¹⁾。治療中のストレス対処行動が「問題解決の他人任せ」、「怒る・恨む・罵る」、「人・物

表 1 研究対象文献一覧

引用文献No.	タイトル
6)	三尾亜喜代, 佐藤美紀, 小松万喜子(2020): 不妊治療終結期の女性が求める支援と看護職者の実践と課題, 母性衛生, 61(1), 50-58.
7)	西岡啓子, 成田伸(2018): 不妊治療を受ける女性の認識する不確かさと関連要因, 日本生殖看護学会誌, 15(1), 15-25.
8)	西岡啓子, 成田伸(2018): 子育てをしながら不妊治療を受ける女性の体験, 日本母性看護学会誌, 16(1), 17-26.
9)	朝澤恭子(2014): 不妊治療を受けるカップルへのパートナーシップ支援プログラムの開発と評価, 日本助産学会誌, 28(2), 154-163.
10)	崎山貴代, 村本淳子(2013): ルーラル地域に居住する女性の不妊治療の受療に関する心理, 日本生殖看護学会誌, 10(1), 5-12.
11)	朝澤恭子(2013): 生殖医療におけるカップルの partnership 概念分析, 聖路加看護学会誌, 17(1), 1-8.
12)	陳東, 森恵美(2005): 不妊治療を受けている夫婦の対処行動と夫婦関係との関連, 日本不妊看護学会誌, 2(1), 4-11.
13)	實崎美奈(2011): 不妊治療を長期継続した女性の継続要因に関する質的研究, 日本生殖看護学会誌, 8(1), 33-39.
14)	朝澤恭子(2012): 夫婦で不妊治療を受ける男性の体験, 日本生殖看護学会誌, 9(1), 5-14.
15)	陳東, 森恵美(1999): 不妊治療を受けている女性の対処と適応状態との関連について, 千葉看護学会誌, 5(2), 7-12.
16)	Asazawa Kyoko(2015): 不妊治療中のカップルに対するパートナーシップ支援プログラムの効果(effects of a partnership support program for couples undergoing fertility treatment), Japan Journal of Nursing Science, 12(4), 354-366.
17)	Asazawa Kyoko(2015): 不妊治療を受けるカップルに対するパートナーシップ因果モデルの開発(Development of a partnership causal model for couples undergoing fertility treatment), Japan Journal of Nursing Science, 12(3), 208-221.

にやつあたる」、「一人になりたがる」の場合、夫婦関係と負の相関を示した¹²⁾。パートナーシップが良好な程、夫婦関係が良好でQOL満足度が高く、パートナーシップと支援の間には正の相関があった¹⁷⁾。治療内容・治療中の男女の心理・治療段階毎の協力内容等の情報提供や、ディスカッションによる気持ちの共有を意図したパートナーシップ支援プログラムは、パートナーシップの強化、女性の精神的苦痛の軽減に効果があり¹⁶⁾、両者の理解の深まり・安心感・コミュニケーション・情報獲得という利点を認めた⁹⁾。

考察

治療を受けるカップルの関係性に関する 12 文献をレビューした。その結果、女性が、パートナーからの受療に対する気遣い・協力・慰め・励ましによる支えを実感し、感謝等の肯定的な認知を行うことは、治療の長期継続に役立つ一方、パートナーと治療に関する相談ができない場合は、パートナーの態度や行動への不満や夫婦関係に対する困難を感じる事がわかった。また、男性は、治療を通して妻とのコミュニケーションの増加、妻への理解の促進といった段階的変化により、妻への協力という行動変容が生じることが明らかとなった。House¹⁸⁾によるソーシャルサポートの分類からそれらを評価すると、女性が男性から受ける効果的なサポートは情緒的サポートに当たり、男性が治療を通して妻への理解を深めることで起きる行動変容は妻への情緒的サポートと道具的サポートに当たると考える。また、効果を認められた支援プログラム内容は情緒面と情報面をサポートする企画であった。つまり、カップルが情緒的・情動的・道具的サポートを互いに行うことは、

パートナーシップの強化や女性の精神的苦痛の軽減に繋がり、治療継続に効果的であると言える。パートナーシップと支援の間に正の相関があることから、カップルを対象に治療段階毎の支援プログラムを積極的に企画・運営することが重要と考える。不妊治療は検査段階、治療段階、治療の終結期の各段階に求められる支援やパートナーとの関係性が異なるため、情緒・情報・道具へのサポートを意図し、各段階での情報提供や、育児希望・治療に臨む気持ち等の学習テーマを設定し話し合ってもらい、その時の気持ちを互いに伝え合う等、カップルの交流の場を重視し、コミュニケーション促進のための企画が効果的と考える。

結論

1. 女性は、男性の気遣い、協力、慰め、励ましといった情緒的サポートによって夫婦関係を良好と認知した。
2. 男性は、治療中に女性への理解が進むことで、情緒的・道具的サポートによる妻への協力という行動変容が認められた。
3. 効果を認められた情動的・情緒的サポートを意図した支援プログラムに、道具的サポートを加えた企画は、治療中の心理的苦痛の軽減に有効な支援となりうる。

参考文献

- 1) 厚生労働省人口動態調査: <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai19/index.html> (2020-08-30).
- 2) 内閣府少子化対策白書: <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/w-hitepaper/measures/w-2020/r02pdfhonpen/r02honpen.html> (2020-08-30).
- 3) 医療情報科学研究所 編(2018): 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科, 第4版, 株式会社メディックメディア, 237.
- 4) 朝澤恭子(2013): 不妊治療を受けるカップルのパートナーシップ尺度の開発 信頼性と妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 33(3), 14-22.
- 5) 石村美由紀, 浅野美智留他(2009): 不妊女性における苦悩とその克服～女性の語りから考察する～, 母性衛生, 49(4), 592-601.
- 6)～17)は表1 研究対象文献一覧参照
- 18) House, J. S., Robert, L. K. (1985): Measures and concepts of social support, New York: Academic Press, Social Support and Health, 83-108.